

〈司書合格体験記〉

司書合格体験記

社会学部社会福祉学科 金田佳子

私が司書になりたいと思ったのは、大学で司書資格を取るための授業をとったのがきっかけです。そういうわけで、かなり計画的に司書になる準備を何年もしていたわけではなく（もちろん就職するときには絶対司書になりたいと思って勉強していましたが）、色々と行動を起こすのが遅かったように思います。これから司書を目指して就職活動をする方が私の体験記を参考にするかどうかかわかりませんが、とりあえずどのようにして私が大学図書館の司書になったかを紹介しようと思います。

まず、司書として就職するためにはどのような道をたどるのか調べました。これは調べる気があれば、私が説明するよりもよい説明で、司書になる方法にどのような方法があるかわかると思うので割愛します。調べていくうちに、大体の試験で、公務員試験という教養試験と、図書系の専門試験があることがわかったと思います。あとは、司書を目指す人が行っている勉強会に参加し（私の場合は4回生の春から）、図書館のことや就職試験に関するさまざまなことを聞き出しました。勉強会に行ってみると、皆さん相当勉強されているので、色々なことを知ることができると思います。司書という仕事に興味がある方は一度いくことをお勧めします。私は勉強会の方達にとってもお世話になりました。

次に、試験勉強のことについて書こうと思います。私の場合は、教養試験を受け、図書系の専門試験と面接試験の後に採用が決定しました。私は、教養試験は独学で、三回生の春から毎日少しずつやり始めました。数的推理など何回もやらないと解けないものなどは繰り返し解くようにしましたが、生物や数学などまったく勉強しなかった教科もありました。教養試験については、勉強の方法についての情報も多くあるので、一次試験を突破できるだけの点数がとれる方法であれば自分が思うように勉強すればよいと思います。実際やってみると、司書の採用ではこの後に専門試験があるので、そんなに教養試験の勉強ばかりしてられない、という感じだったような気がします。

図書系の専門試験については、ひたすら過去問を解くようにしました。特に国立大学法人の大学図書館の試験は、過去問がホームページにでているので、公開されている分はすべて印刷し、同じような問題ごとにノートにはりつけ（例えば、これは著作権の問題、これは分類法の問題というように）、答えを自分で調べて書き込み、関連・予備知識も横に書き込み、わからないことは教科書で調べたり勉強会の人に聞いたりして、勉強しました。勉強会には先輩方が残してくださった過去問題もあるので、それも活用していました。この作業は三回生の秋ごろからやっていて、最終的にとても役に立ったと思います。というのは、毎年必ず出る問題とそうでない問題がわかるし、試験にでる形で知識を覚えることができると思うからです。このノートは試験会場にも持ち込みやすく、特に自分で忘れやすい部分や、日本十進分類法の分類記号の一覧なども書いて、活用していました。

また、私の場合は大学生になってから司書になりたいと思ったと書きましたが、最終的に私が勉強を続けてこられたのは、大学生になって、就職は簡単にできな

いらしいということがなんとなくわかっていても、それでも司書になりたいという気持ちがあったからだと思います。私は大学生の頃、よくあるパターンで恥ずかしいのですが、ほとんど毎日ぶらぶらしていました。そのこともあって、まわりの人に「今から勉強したって絶対に司書にはなれないと思う」と言われたこともあったのですが、一応落ち込んで、その後立ち直って勉強していたのを覚えているので、結局はそういう気持ちというか、そこまで言われてもどうしてもなりたいたと思えた職業を見つけることができたという所がよかったのかもしれないと思います。今から思うと、どうしてあんなに司書になりたいと思いつ込んでいたのか、不思議に思うくらいです。

富山大学附属図書館で働きはじめて、まだ日が浅く、勉強することだらけなのにこんなことを書くのもどうかと思いますが、私の場合は特に就職は運が良かったなと思う部分と、自分が試験のために勉強したなと思う部分があるので、もしも今から司書になりたいなと少しでも思う人がいたら、私の経験からすると、努力して損はないと思います。私はたまたま司書になることができたから、こんな偉そうなことを書いているのだろうという気もしますが、私の合格体験記を読んで、少しでも背中を後押しされるような人がいたら、幸いです。

文学部文化史学科 小村 愛美

私は2009年3月に同志社大学文学部を卒業し、4月から大阪大学附属図書館で働いています。図書館司書を目指した経緯と採用試験の様子などを、少し述べさせていただきますと思います。司書への情報が欲しいと考えている方に、少しでも参考になれば幸いです。

私が「図書館で働けたらいいな」と思うようになったのは小学生の頃でした。当時は、本と図書館の空間が好き、という単純な理由だけでした。高校生の時、図書館で働くには司書の資格が必要だと知り、大学で資格が取れたら働けるのだと思いついて進学しました。

2回生の時に初めて図書館ガイダンスへ行き、採用試験についてや採用数の少なさなどを聞くとともに、勉強会の存在を知りました。2回生後期から勉強会に参加しはじめ、司書についての知識や情報を得ていきました。司書とは人と情報をつなぐ仕事なのだと知り、ただ「好きだから」と目指していたのが「こんな仕事をしたい。人の役に立てるようにになりたい。」という明確な目標へと変わりました。

専任の図書館司書の採用試験は基本的に公務員の採用試験と似た形式を取り、一般教養試験が課されます。試験勉強のため、公務員試験の通信教育講座に2回生の冬ごろ入会しました。しかし本腰を入れはじめたのは3回生の夏近くだったと思います。司書の専門知識の試験対策は、普段の勉強会への参加のほか、勉強会にある過去問や参考書などで勉強していました。

一時期は一般企業への就職活動もしていました。司書だけに就職を絞ることに不安があったためですが、就職活動をする内にやはり司書になりたいという気持ちが強くなりました。それからは就職活動を面接の練習と位置づけ、期間も4回生までと決めて続けました。

図書館の実際の様子を知りたくてアルバイトも探しました。3・4回生の間に学校図書館と府立図書館で、それぞれ半年程アルバイトをさせていただき、講義

や利用者側の視点からではわからない図書館の業務を学ぶことができました。

4回生からは採用試験に専念しました。試験情報は主にインターネットで探し、通常の検索や、自治体のホームページをしらみ潰しに見ていくなどして申し込みをしていきました。

受験したのは、以下の4つの試験です。

- ・近畿地区国立大学法人等職員（図書）
 - …5月：1次試験（一般教養筆記）
 - 7月：機関訪問、2次試験（専門筆記・面接）、
 - 7月15日 最終合格
- ・国立国会図書館（Ⅱ種）
 - …5月：1次試験（一般教養筆記）不合格
- ・横浜市（大卒程度）職員（図書）
 - …6月：1次試験（一般教養・専門筆記）合格、
 - 7月：2次試験 辞退
- ・岡山県教育委員会職員（司書）
 - …7月：1次試験（一般教養・専門筆記、面接）合格、
 - 2次試験 辞退

国立大学の合格が最初に出たため、他の試験は辞退しました。

これから大阪大学に就職が決まるまでを、少し詳細に紹介したいと思います。

国立大学法人は、各地方ごとに試験を行います。私が受験した平成20年度は、近畿ブロックでは京都大学、大阪大学、京都教育大学から合計6名の採用予定が出ていました。5月中旬に1次試験、6月末に1次の合格発表があります。受験者数等はネット上で公開されていますが、200名ほどが受験し30名程度が1次試験に合格していました。

1次試験に合格すると、7月の第1週頃に機関訪問が行われます。これは各大学ごとに行われる説明会のようなもので、それぞれ実施日時や申し込み方法等が異なります。履歴や志望理由をその場で書く場合もありました。

専門筆記試験は7月6日に行われました。この筆記と面接とを合わせて2次試験となります。筆記試験の対策には採用試験委員会のHPで公開されている過去問の他、かつての国家Ⅱ種（図書館学）採用試験問題集などが役に立ちました。

筆記試験が終わると、あらかじめ申し込んでおいた日時に面接があります。面接に際しては、勉強会の先輩が残してくださった過去問が非常に役に立ちました。おそらく大抵の試験で問われることだと思いますが、「なぜ（大学図書館の）司書を目指すのか」、「なぜこの大学（自治体）を志望するのか」、「自分の強みは何か、採用されたらそれをどう活かすか」などを自身で把握しておく必要があると思います。大阪大学には機関訪問の際から、理念や目指すサービスの姿勢に共感していましたが、面接を受けた当日に結果通知の電話があり、最終的な意思確認を経て内々定を頂きました。

現在配属されている部署は、1日の半分をカウンターで利用者に接し、残り半分は学内の資料の管理に携わるサービス部門です。覚えなければならぬことが多く、忙しくて大変なこともあります。充実した毎日で楽しく過ごせています。

図書館司書は、就職の道として楽な選択ではありません。採用状況は厳しい状態が続いています。そんな中で司書を目指す、あるいは選択の1つとして考えている人は、他の進路との間で迷うことがあるかもしれません。私も実際に「合格するかどうか分からないし、やっぱり企業に入ったほうが良いのだろうか」と思っ

た時期がありました。

迷うことは良いことです。その結果違う進路に進むことを決めたとしても、自分の意志で決める選択ならば良いと思うのです。そして、迷った末にやはり司書になりたい、司書を目指そうと思ったのなら、それは自分の意志を再確認したということであり、目指そうという決意が本物になったということです。

どうしても司書を目指そう、と決めた人は、どうか諦めずに頑張ってください。試験のための勉強は範囲も量も多く、うまく進まなかったりすると不安がつきまといえます。またひとつひとつの試験は結果が出るまで1～2ヶ月かかり、時期も固まるので、複数の試験の申込み・受験・結果待ちなどを並行して進めなければならず、精神的に辛くなる時もあります。それでも諦めずに司書への思いを持ち続けければ、時間はかかってもきっと道が開けると 생각합니다。

勉強を進める上では、勉強会が大きな支えになってくれました。司書を目指す学生同士で、図書館学の知識や採用試験の過去問について学び合い、試験の形式や情報を交換し、励まし合いました。また卒業生の先輩方もたくさんおられるので、多くの縁を結ぶこともできました。司書を目指すための知識と情報と、何より仲間を得られる場です。これから司書を目指す人には、ぜひ活用して欲しいと思います。

司書を目指すにあたっては、試験のための勉強の他に、様々なことを体験するようにして欲しいと思います。専攻する学問でも、スポーツや趣味や遊びでもかまいません。様々な経験をして、人間性の幅を広げてください。司書は多くの人と接する仕事です。それぞれに異なる考え方や背景を持つ人々と接し、それを理解しなければなりません。そのためには自身の視野や考え方を、できるだけ幅広くしておくことが必要だと思います。私自身働いている中で、飲食店や書店でのアルバイトやスポーツのサークル活動での経験が、図書館学の知識や図書館でのアルバイトの経験と同じくらい役に立っていると感じる時があります。

試験の合格が最終目標ではありませんから、採用されて、それから先どんな司書になりたいのか。自身の人間性を土台としてどんな司書になっていくのか。それを心の隅に置いて、考え続けることが必要だと思います。

私も司書として歩き始めたばかりです。これまで書いてきたことは全て、私が実践し成長していかなければならないことです。同じ仲間として、司書を目指している皆さんを心から応援しています。